

## 4回生 選択科目「美術Ⅰ」授業のシラバス

教科名	芸術	科目名	美術Ⅰ	単位数	2	単位
科目の目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を養う。 ○美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深め、独創的・創造的に表すことができるようにする。 ○美術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 ○主体的に美術に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。					
教科書	高校美術1（日本文教出版）		副教材	美術 表現と技法（日本文教出版）		

### 1 学習の目標

(1) 幅広い創造活動から、主題生成の能力や材料や用具の特性を生かし創意工夫してあらゆる技能、日本及び諸外国の美術文化などを理解する能力を養う。

### 2 学習の方法

- (1) 予習について  
○基本的には必要ありません。
- (2) 授業について  
○教科書・副教材は毎回持参してください。また、表現活動では、必要な道具や用具の準備について、事前に連絡します。
- (3) 復習について  
○基本的には必要ありません。

#### 〈学習アドバイス〉

- 完成した作品等を題材ごとに設定した評価基準に基づき評価します。  
○主体的、積極的に美術作品を鑑賞し、幅の広い見方を獲得し、作品制作に生かしてください。

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点を理解し、表現方法を追求し、創造的に表すことができる。
②思考・判断・表現	自然の造形や美術作品などの造形的な美しさ、表現の工夫、機能美と働きなどについて独創的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練り、美術や美術文化に対する見方・感じ方を広げている。
③主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好し、心豊かな生活を創造していこうとする。

#### (2) 評価の方法（以下観点①～③は「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料	定期 考査	単元 テト	小 テト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ハト	ワーク シート	討議				
①知識・技能					○		◎			○					
②思考・判断・表現					○		◎	◎		○					
③主体的に学習に取り組む態度					○		◎	◎		◎	○				

#### 〈担当者からのメッセージ〉

- 授業中の創造的な活動の全てが評価の対象になります。主体的に活動に取り組み、創意工夫しながら制作する姿勢を大切にしてください。  
○自然や美術作品、文化遺産などに関心を持ち、親しみを持って鑑賞する姿勢を持つようにしてください。

### ■本校で目指す生徒像と身につける資質・能力

高い知性						豊かな人間性			健康な心身		郷土愛と国際性	
探求心		情報活用力		調整力		自律心	寛容さ	感受性	生命尊 重の心	強くな やかな 心身	日本人 としての 誇り	多様性 の尊重
関心 ・意欲	問題 発見力	情報 収集力	論理的 思考力	共感的 態度	意見交換 ・調整力							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
課題に関心を持ち、問題発見・解決へ向けて意欲的に取り組むことができる。	生じている問題や今後生じうる問題について理解し、解決方法を提案することができる。	多様な視点から必要な情報を収集し、整理・分析して、意見に結びつけることができる。	事象や関係を把握し、多様な情報を整理・分析し、論理的に思考することができる。	相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すことができる。	他者の主張を理解し、自分の主張と調整し、互いに納得できる結論を得ることができる。	強い意志をもち、周囲に流されることがなく、困難に立ち向かうことができる。	異なる価値観や多様な特質を理解し、尊重しながら、互いを高め合うことができる。	有形無形の美や自然に対し、その価値を素直に受け止めることができる。	命の尊さや健康の大切さを理解し、何より自他の生命を尊重することができる。	困難に負けない強い心と体をもち、あらゆる課題に対して柔軟な対応ができる。	郷土に対する深い理解と愛着をもち、日本のよさを伝えることができる。	世界の多様性を理解し、多面的・多角的な視野から他者と接することができる。

4 授業計画 ※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③

月	単元	学習内容	評価の観点	考查等	資質・能力
4	オリエンテーション(1)	○美術Ⅰの目標と授業内容について学習する。	③学習内容と評価のポイントをしっかり理解しようとしている。		AB
5	鉛筆デッサン 「静物を描画する」(4) 木炭デッサン 「石膏デッサン」(4) 水彩画 「身近なものを描く」(6)	○デッサンの基本的な技術を学ぶ。 ・道具の使い方 ・透視図法 ・陰影表現、質感表現 ○複数の静物をモチーフにし、それらを観察して描く。	①③対象をよく観察し、最後まで粘り強く描こうとしている。 ②空間を意識した画面構成をし、構図や表現について工夫している。 ①鉛筆・木炭・絵具の持つ特性を生かし、効果的に表現している。 ①細部を観察し、正確に描写している。 ②③参考作品などの他者の作品からよさや美しさを味わっている。		ABI AFHI
6	立体構成① 「木材を活用した立体造形」(12)	○自分でテーマを決め、自由に立体物のかたちをアイディアスケッチする。	③立体構成制作に興味を持ち、テーマに沿った内容を積極的に表現しようとしている。		ABI
7	立体構成② 「石材を活用した立体造形」(12)	○バルサ材・石膏を使用し、イメージしたとおりに立方体を削り出し、かたちを形成する。 ○必要に応じ、教材のアルミ箔キットを貼り付け、完成させる。 ○互いに作品を鑑賞し合う。	②効果的な表現をするために、直線や曲線の組み合わせなど工夫している。 ②目的にあった用具を使用し、完成の見通しをたてながら計画的に作業している。 ③完成した作品をお互いに鑑賞し、よさや美しさを味わっている。		AFHI
8	色彩の基礎(1) 文字の基礎(1)	○色の三属性、混合、対比など、色についての基本的な性質について学習する。 ○様々な種類の文字があることを理解し、和文・欧文の基本的な構造について学習する。	③色の仕組みや性質について理解しようとしている。 ①③基本的な文字についてその構造を知り、作品制作の中で生かそうとしている。		ABI
9	平面構成(6)	○美的構成の秩序を理解し、色面を構成する。	①美的構成の秩序を理解し、表現に活用している。 ②意図を持った配色計画を立て、制作に生かそうとしている。	レポート提出	ABI
10	版画の魅力① 「シルクスクリーン」(6)	○シルクスクリーンを用いた代表的な作家の作品を鑑賞する。 ・アンディ・ウォーホル ・草間彌生 等 ○シルクスクリーンの制作手順と特性を学んだ後、Tシャツ制作を行う。 ○互いに作品を鑑賞し合う	①③シルクスクリーンの制作技法を理解し、作品の特徴やよさを積極的に理解しようとしている。 ②自分の表現したいテーマが明確であり、独創的で個性的な表現を構想している。 ①製版や印刷の方法を理解し、手順通りに仕事を進めている。 ③完成した作品をお互いに鑑賞し合い、評価し合うことができる。		ABI AFHI
11					
12	文字のデザインと展開(12) シンボルマークとロゴタイプ	○アイデンティフィケーション制作の理念を学習し、ロゴやマークに表す方法の理解を深める。 ○効果的な色彩・字体を工夫し、シンボルマーク・ロゴタイプを制作する。 ・マーク、ロゴにするテーマを検討する。 ・制作のための資料収集 ・アイデアスケッチによる構想の具現化。 ・ケント紙に表現。 ○互いの作品を鑑賞し合う。	③アイデンティフィケーションには様々な表現法があることを積極的に理解しようとしている。 ②必要な資料を収集しながら作品構想を進め、的確にアイデアスケッチにまとめている。 ①②マーク・ロゴデザインのルールを理解し、表現方法を工夫して制作している。 ③完成した作品を鑑賞し、互いの作品のよさを感じ取っている。	レポート提出	ABI AFHI
1	※美術史(5) 不定期に実施	○美術的建造物や作家の生涯やその作品について学ぶ。	①③古代建造物の建築の経緯や目的、また作家の生涯や作品制作の意図などを理解し、感想を述べることができる。		ABILM